

研究成果情報	園芸	33	果樹	病害虫
新技術・情報名	ブドウ枝膨病の感染時期と柄胞子の時期別溢出量		分類	①

1. 成果の内容

1) 技術・情報の内容及び特徴

無病樹の罹病枝下への暴露試験や罹病枝直下で採集した雨水中の柄胞子数の調査により、ブドウ枝膨病の自然感染時期や柄胞子の時期別溢出量を明らかにした。

- (1) 病原性のある α 柄胞子の溢出時期は5月から7月で、溢出量は梅雨期の6月上旬～7月中旬が特に多い。
- (2) 病原性のない β 柄胞子は4月から10月のほぼ全期間にわたって溢出する。
- (3) 黒色病斑の発病からみたブドウ枝膨病の主要感染時期は、梅雨期の6月上旬～7月中旬で、 α 柄胞子の高濃度溢出時期とほぼ一致する。
- (4) 5月に感染すると、黒色病斑が発生せずに、感染翌年に潜伏病斑（節部粗皮下の射出髓が褐変）のみを引き起こすことがある。この原因として、 α 柄胞子の低濃度感染が示唆される。
- (5) 潜伏病斑が生じた節部は、翌年に節膨れ症状を呈する（データ略）。

2) 技術・情報の適用効果

防除適期が明らかとなり、効率的な薬剤防除が可能となる。

3) 適用範囲

ブドウ（特に巨峰群品種）栽培地帯

4) 成果の利活用・普及指導上の留意点

5月の感染により、黒色病斑を呈することなく2年後に節膨れ症状を引き起こすことがあるので、この時期の防除も必行する。

2. 具体的データ

第1表 ブドウ枝膨病柄胞子の時期別採集量 (1990年)

雨水採集期間	α 胞子	β 胞子	期間中の 降水量mm	期間中の 降雨日数
4.18~4.24	0	5.8	51.0	3
4.25~5.4	0	8.6	36.5	3
5.5~5.14	0	7.2	30.0	3
5.15~5.21	1.4	23.0	65.0	3
5.22~6.2	1.4	70.6	41.0	2
6.3~6.6	18.7	14.4	16.5	1
6.7~6.15	21.6	23.0	207.5	3
6.16~6.27	40.8	350.4	36.0	4
6.28~6.29	302.4	278.4	60.0	3
6.30~7.13	27.4	28.8	172.5	6
7.14~7.25	0	0	31.0	4
7.26~8.20	0	0	22.5	2
8.21~9.4	0	20.2	24.0	6
9.5~9.13	0	24.5	7.5	2
9.14~9.18	0	14.4	27.0	2
9.19~9.21	0	2.9	51.5	3
9.22~9.27	0	0	6.0	2
9.28~10.8	0	76.3	63.5	7
10.9~10.19	0	10.1	36.0	3
10.20~10.30	0	0	12.0	2

注) α, β 胞子数は濃縮雨水0.1ml当りの胞子量
注) 降雨日数は期間中1mm以上降雨のあった日数

第2表 ブドウ枝膨病の各暴露時期別の発病状況 (1990年)

暴露時期 (月日)	新梢時			2年枝時 (1991年3月調査)		
	調査 枝数	黒色病斑 発生枝率(%)	発病 程度	調査 枝数	節膨れ症状 発生枝率(%)	射出髓の 褐変枝率(%)
4.18~5.14	21	0	(-)	10	0	40
5.15~6.5	25	0	(-)	14	0	57.1
6.6~7.6	22	100	()	10	0	100
7.7~8.9	19	0	(-)	18	0	0
8.10~9.5	19	0	(-)	8	0	0
9.6~10.2	13	0	(-)	11	0	0
10.3~11.1	16	0	(-)	10	0	0

注) 黒色病斑は1990年8月23日, 10月2日, 11月1日調査,
注) 節膨れ症状, 射出髓の褐変枝率は1991年3月18日調査

3. その他特記事項

担当部 科室名: 生産環境研究所 病害虫部 果樹病害虫研究室
研究担当者名: 梶谷裕二・山田健一・山中正博

研究課題名: ブドウ枝膨病の総合的防除技術の開発

1) 発生生態の解明

期 間: 平成元年~平成3年 予算区分: 地域重要新技術

既発表論文・資料名等: 福岡県農業総合試験場研究報告B(園芸)第11号、平成元年~3年度福岡県農業総合試験場果樹病害虫関係試験成績書

取りまとめ責任者名: 梶谷裕二